

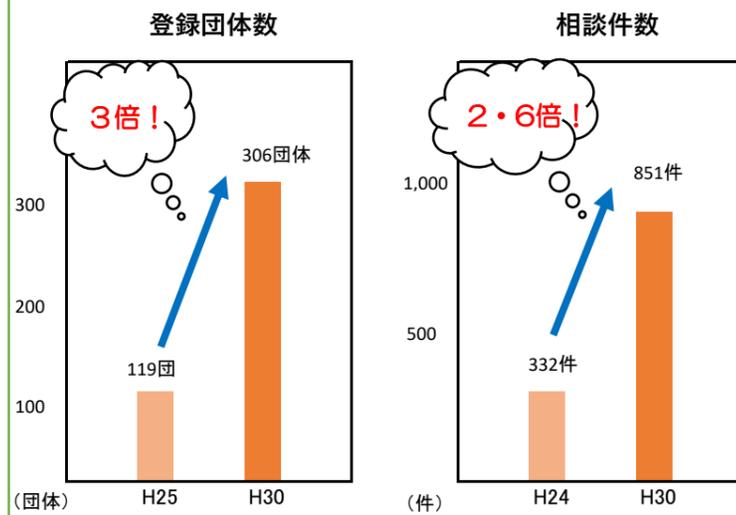
長岡市市民協働条例の理念（第4条）



- ◆それぞれが自立
 - ◆それぞれが対等
 - ◆それぞれが違う
- この関係性が新たな課題を解決する大きな力となり得る

長岡市の考え方

- ◆市民の自由な発想と自発的な活動への徹底した支援
- ◆市民がいきいきと活動できるための環境整備



ここがすごい！長岡市の市民協働

- ◆平成24年6月に制定された市民協働条例は、市民委員と長岡市が3年間、14回の話し合いを重ねて正に「協働」で作上げた条例
- ◆市民活動推進事業補助金によりH25～R1の7年間で実施された事業数は468件。これは県内他市で市民活動に対する助成を行う制度の中でもトップクラスの数
- ◆市民活動推進事業補助金の交付基準（上限額、補助割合など）は全国と同規模都市（人口20万人以上）の中でトップクラス

8年間でこんな活動が生まれた

条例制定から8年間で、自分達がやりたいことをやるだけでなく、「困っている人を助きたい」「社会の役に立ちたい」想いで活動を初め、行政の隙間を埋めるような活動を行う団体が数々生まれた！

ひだまりハウス

発達に不安のある子どもを持つ家族の情報交換や交流の場の提供。子ども家庭センターに相談に行く1歩手前のグレーゾーンの子どもの持つ親御さんの憩いの場。



山本地区空き家空き地利活用プロジェクト

空き地を活用して住民や子どもたちが集まれる農園を作り、交流の場を提供。空き地という一見デメリットなものを逆手に取り、地域資源として活用した好例。



ながおか認知症の人と笑顔でい隊

認知症への理解や関心を深めるため、他団体と協力して長生橋を認知症のイメージカラーであるオレンジ色にライトアップしたり、当事者による講演会を行い市民の認知症に対する偏見や不安の減少を目指す。



ウィメンズヘルスLab.

女性特有のがんの早期発見と検診受診率の向上を目指す。実際の体験談を織り込んだ説得力のある講演と、触診モデルを使った実践的な活動。



向日葵の会

摂食障害に苦しむ子どもやその親に対するケア。行政だけでは難しい当事者ならではの視点により大勢の参加者の心を救う活動。



てらどまり若者会議～波音～

親子の釣り体験教室と料理教室を通じて寺泊の魅力再発見と子どもたちの食育を実施。地域活性化、食育にプラスして企業（地元漁協）とのつながりも生み出した活動。

